

近年、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、全国各地で水災害が激甚化・頻発化しており、降雨量の増大等に対応するため、国や自治体はハード整備の加速化・充実や治水計画の見直しを行っています。加えて、上流・下流や本川・支川の流域全体を俯瞰し、国と自治体、企業、住民等、あらゆる関係者が協働で取り組む「流域治水」の実効性を高める法的枠組み「流域治水関連法案」が令和3年11月に施行されました。

本市では、土砂災害防止法に基づく「土砂災害ハザードマップ」を令和3年3月に、水防法に基づく「洪水ハザードマップ」を令和4年4月に改訂し、住民の皆さまへ印刷物の配布やウェブサイト等で周知を行っています。また、今後の地震災害に備えるため「液状化ハザードマップ」を令和3年3月に作成し、ウェブサイト等で周知を行っています。

市民の皆さまの各種ハザードマップに対する認知度を把握し、今後の取り組みに向けて参考とさせていただくため実施したアンケート結果をお知らせいたします。

(河川課)

調査概要

- 調査期間 令和4年7月4日(月)～7月13日(水) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 178名 女性 182名)
- 回答者数 326名 (男性 162名 女性 164名)
- 回答率 90.6%

【分析】

《回答者内訳(人)》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	0	5	13	32	40	23	35	14	162
女性	2	11	34	50	42	23	2	0	164
合計	2	16	47	82	82	46	37	14	326

《自分自身の避難について》

- ・自分自身の避難場所について全体の79.8%が「知っている」と回答し、20.2%が「知らない」と回答。
- ・自分自身の避難ルートについて全体の70.9%が「決めている」もしくは「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答し、29.1%が「決めていない」と回答。

《洪水ハザードマップについて》

- ・郡山市洪水ハザードマップ(以下、洪水ハザードマップ)について95.1%が「知っている」と回答し、4.9%が「知らない」と回答。
- ・洪水ハザードマップにより自宅や学校、職場等の水害リスクについて全体の71.7%が事前に「確認している」と回答し、28.3%は「確認していない」と回答。

《土砂災害ハザードマップについて》

- ・郡山市土砂災害ハザードマップ(以下、土砂災害ハザードマップ)について全体の58.9%が「知っている」と回答し、41.1%が「知らない」と回答。
- ・土砂災害ハザードマップにより自宅や学校、職場等の水害リスクについて全体の65.0%が事前に「確認している」と回答し、35.0%が「確認していない」と回答。

《液状化ハザードマップについて》

- ・郡山市液状化ハザードマップについて全体の24.8%が「知っている」と回答し、75.2%が「知らない」と回答。

《その他について》

・各種ハザードマップの今後の活用について、全体の21.2%が「既に活用している」、70.2%が「活用を考えている」、8.6%が「活用を考えていない」と回答。

【考察】

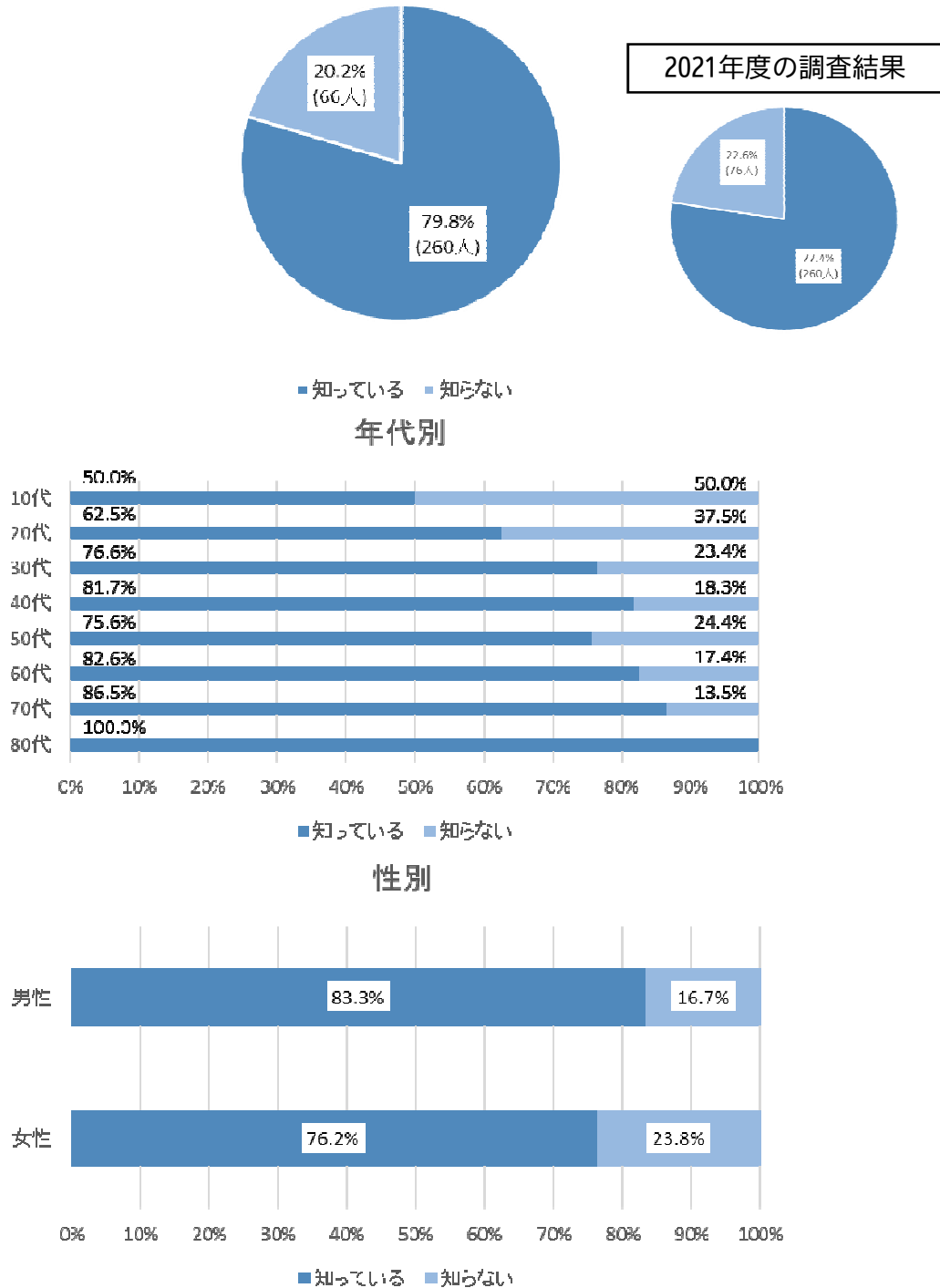
- ・自分自身の避難場所や避難ルートについて約7割が事前に決めており、災害時における避難への意識が高い。
- ・新たな避難場所を追加した際は、避難場所の選択肢として認知してもらえるよう追加の都度周知を強化する必要がある。
- ・土砂災害ハザードマップ及び液状化ハザードマップの認知度は、洪水ハザードマップよりも低いので、引続き周知・啓発をしていく必要がある。
- ・各種ハザードマップの今後の活用について、大多数の方が活用する考えでいる一方で、自宅の周りは安全などの理由から、活用を考えていないという意見もあった。必ずしも、自宅で被災するとは限らないので、引続きハザードマップの啓発を行っていく必要がある。

※ 構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

第1章 自分自身の避難について

問1 災害の種類（地震、水害など）に応じた自身の避難場所をご存知ですか？
（1つ選択）

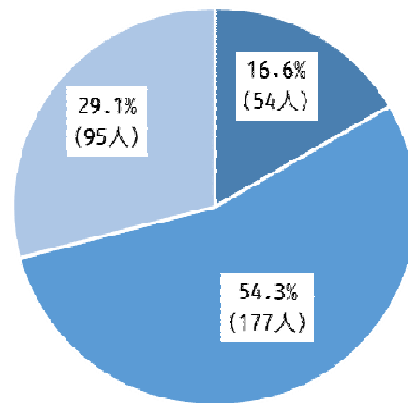
（回答者：326人）



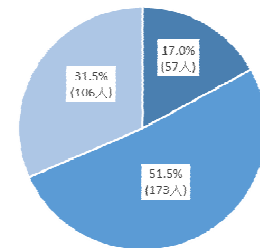
災害の種類（地震、水害など）に応じた自分自身の避難場所について、全体の79.8%が「知っている」と回答している。また、年代別においては、10代から20代は5割以上、30代以降は7割以上の方が「知っている」と回答している。年代に関係なく多くの方が、自分自身の避難場所について認識している。

問2 災害の種類（地震、水害など）に応じた自身の避難ルートを決めてありますか？
（1つ選択）

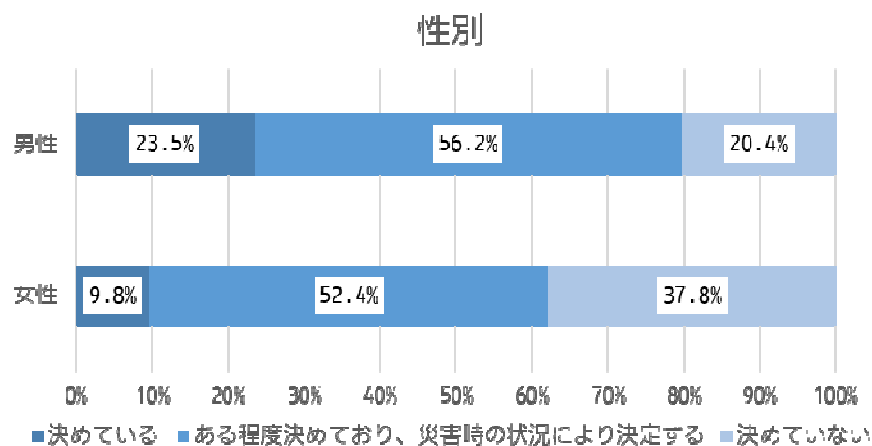
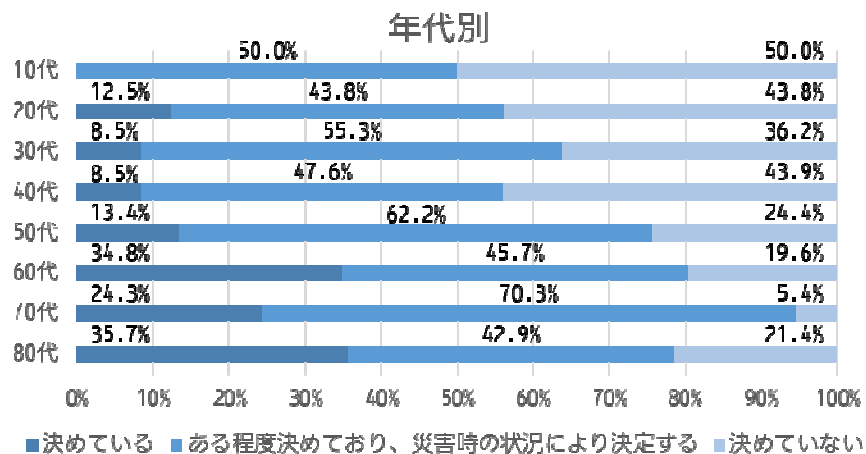
（回答者：326人）



2021年度の調査結果



■決めている ■ある程度決めており、災害時の状況により決定する ■決めていない

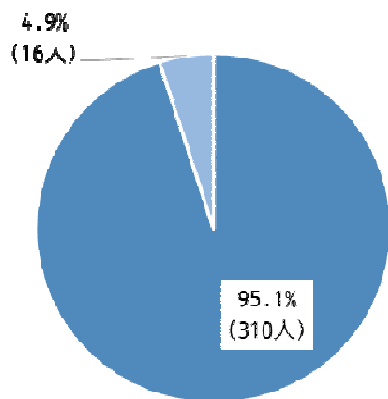


全体の16.6%が「決めている」、54.3%が「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答し、合わせて70.9%が何かしら避難ルートを決めている。性別では、男性は79.7%、女性は62.2%が「決めている」もしくは「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答しており、女性よりも男性の方が17.5ポイント高い。

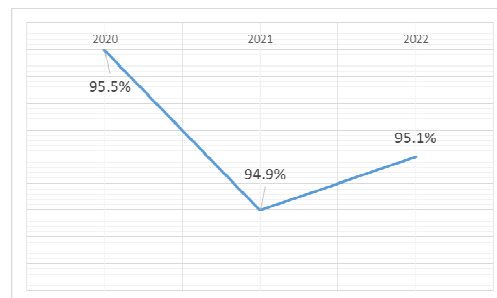
第2章 洪水ハザードマップについて

問3 郡山市洪水ハザードマップ（以下、洪水ハザードマップ）をご存知ですか？
（1つ選択）

（回答者：326人）

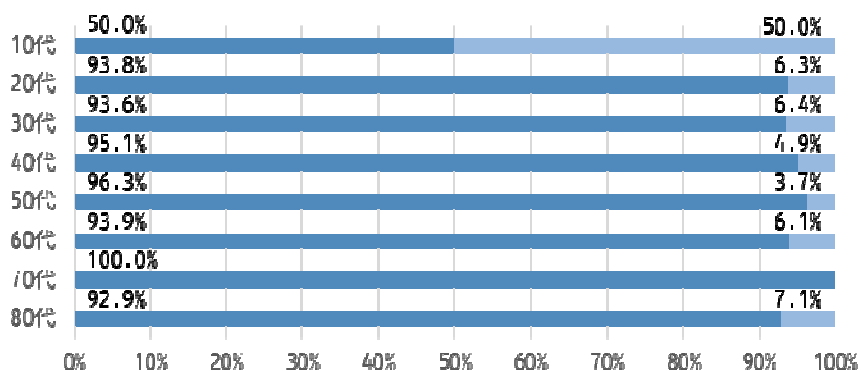


洪水ハザードマップ認知度の推移



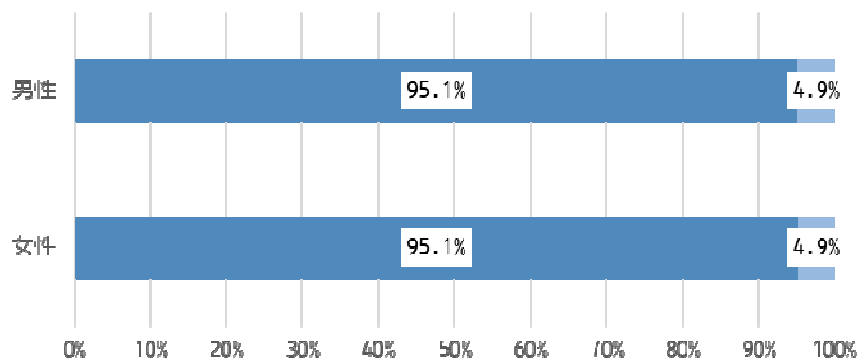
■知っている ■知らない

年代別



■知っている ■知らない

性別

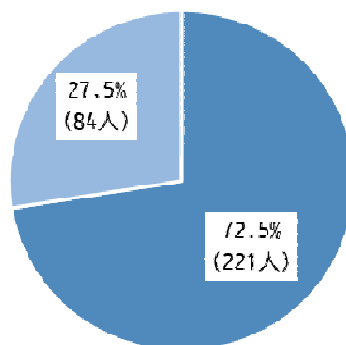


■知っている ■知らない

全体の95.1%が「知っている」と回答し、洪水ハザードマップの認知度は9割を超えている。年代別では70代が100%と最も高く、20代から60代、80代では9割を超えている。性別では、男性は95.1%、女性は95.1%であり、どちらも9割以上が「知っている」と回答している。

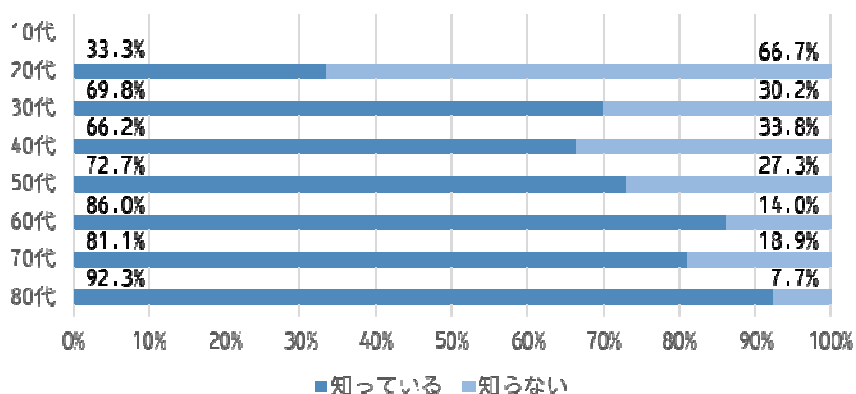
問4 問3で「知っている」を選択した方に伺います。本市が洪水ハザードマップを令和4年4月に改訂し、公表したことをご存知ですか？（1つ選択）

(回答者：305人)
(無回答：5人)



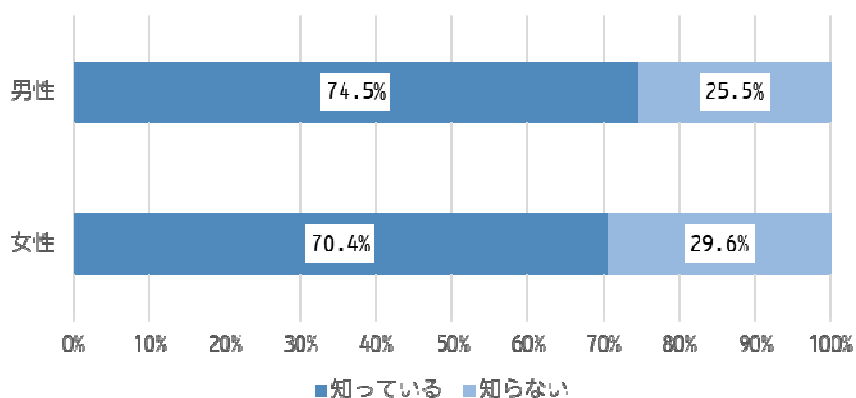
■知っている ■知らない

年代別



■知っている ■知らない

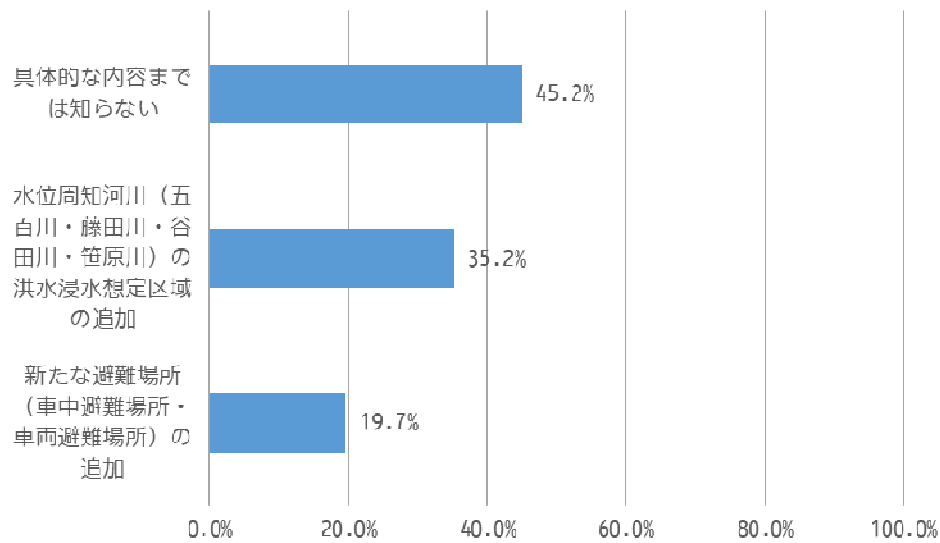
性別



■知っている ■知らない

全体の72.5%が洪水ハザードマップの改訂について「知っている」と回答し、残りの27.5%は洪水ハザードマップについては知っているが、改訂されたことについては「知らない」という結果であった。年代別では、60代から80代において8割近くが「知っている」と回答している。性別では、「知っている」と回答した割合が男性は74.5%、女性は70.4%であり、ともに7割以上が「知っている」と回答している。

問5 問3で「知っている」を選択した方に伺います。改訂の内容で知っている内容は何ですか？（複数選択可）



「具体的な内容までは知らない」が45.2%で最も多く、「新たな避難場所（車中避難場所・車両避難場所）の追加」が19.7%で最も少ない結果となり、避難場所の選択肢として認知してもらえよう周知を強化する必要がある。改訂したことは知っていたが、改訂内容までは知らない人が多くいることがわかる。

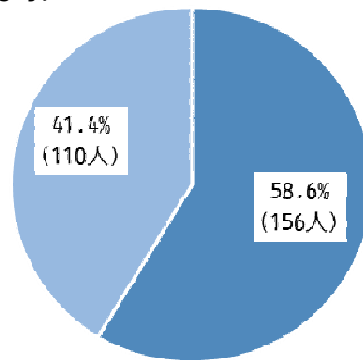
問6 問3で「知っている」を選択した方に伺います。洪水ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

洪水ハザードマップURL

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2177.html>

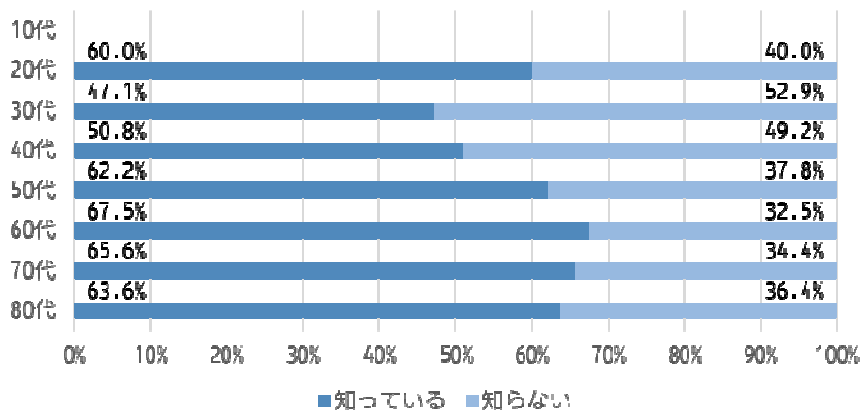
(回答者：266人)

(無回答：44人)



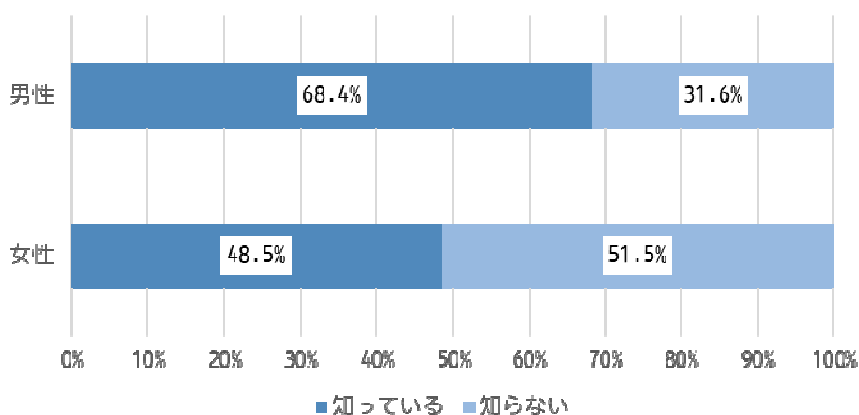
■ 知っている ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ 知らない

性別

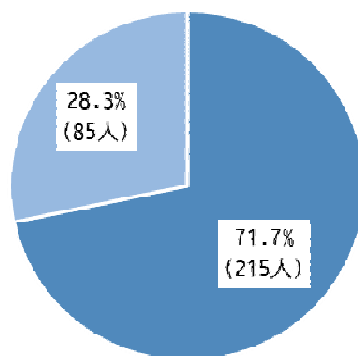


■ 知っている ■ 知らない

問3で「知っている」と回答した方の内、58.6%が市ウェブサイトからダウンロードできることを「知っている」と回答している。年代別では、20代、50代から80代が6割以上と割合が高い。一方で、30代では「知っている」割合が5割以下と低い。性別では、男性は68.4%、女性は48.5%であり、女性よりも男性の方が19.9ポイント高い。

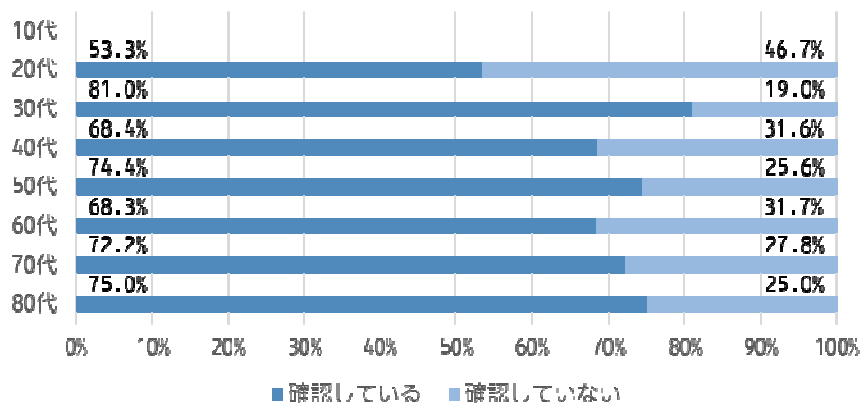
問7 洪水ハザードマップを使って、自宅や学校、職場等の水害リスクについて事前に確認していますか？（1つ選択）

（回答者：300人）
（無回答：10人）



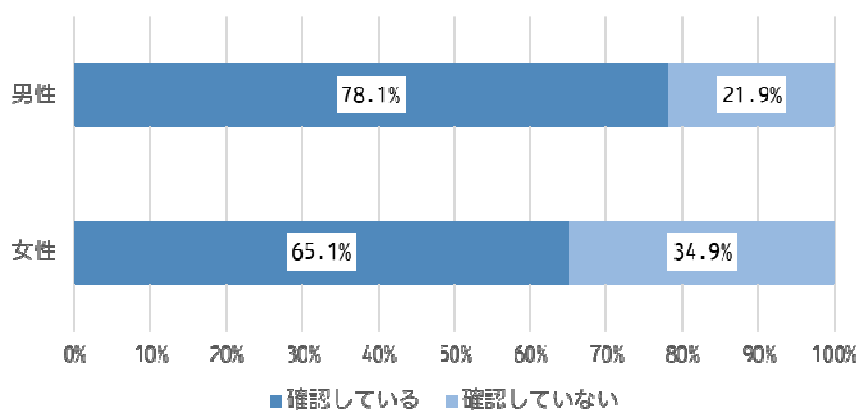
■ 確認している ■ 確認していない

年代別



■ 確認している ■ 確認していない

性別



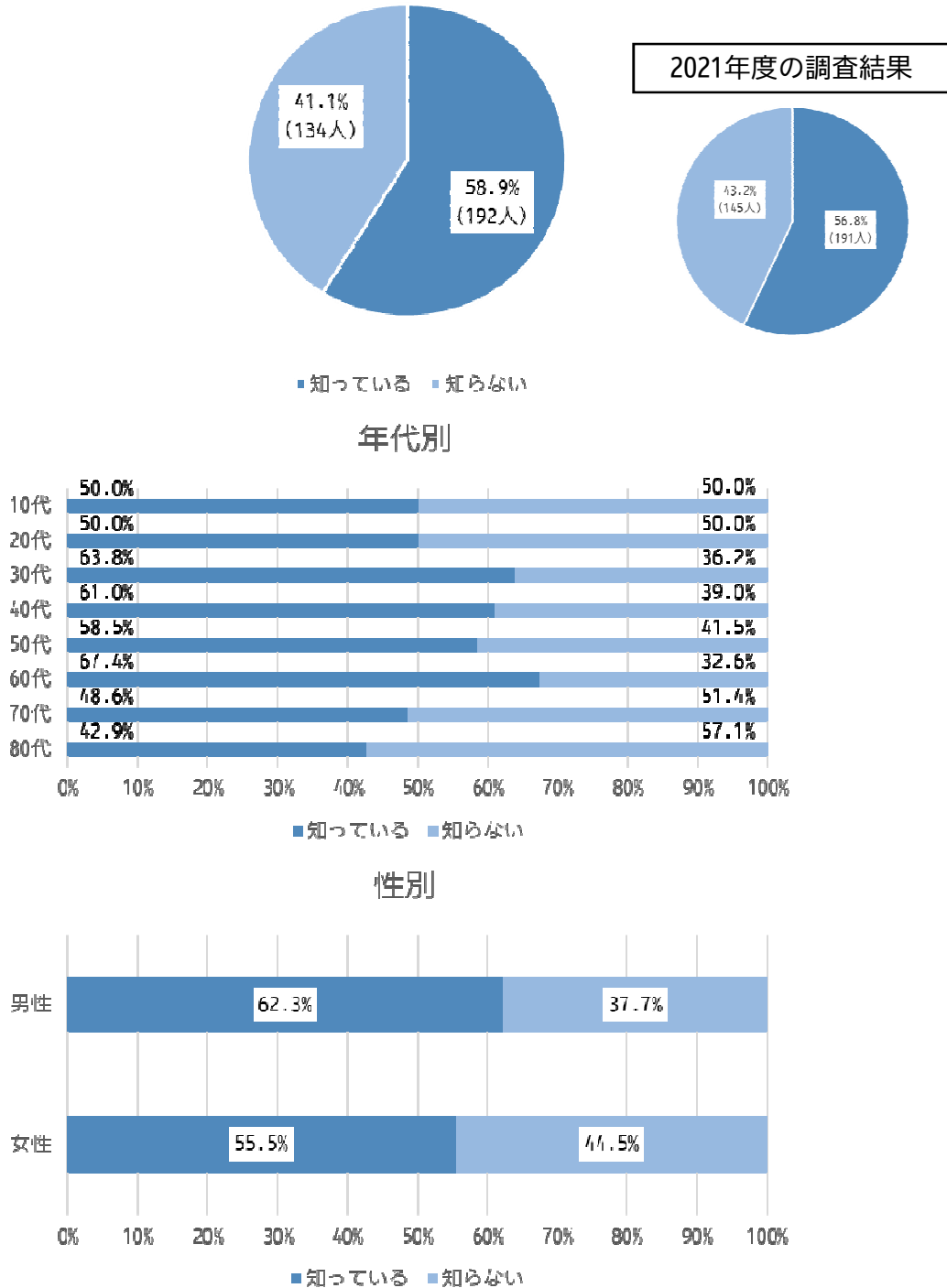
■ 確認している ■ 確認していない

全体の71.7%が「確認している」と回答している。年代別では、30代が8割以上と、他の年代と比較すると高い割合を示した。性別では、男性は78.1%、女性は65.1%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が13.0ポイント高い。

第3章 土砂災害ハザードマップについて

問8 郡山市土砂災害ハザードマップ（以下、土砂災害ハザードマップ）をご存知ですか？
（1つ選択）

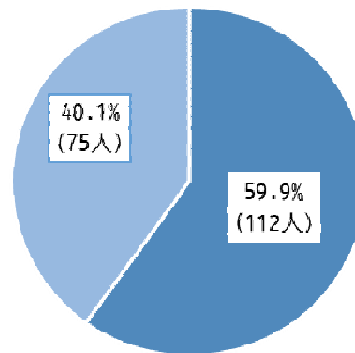
（回答者：326人）



全体の58.9%が土砂災害ハザードマップを「知っている」と回答している。年代別では、10代から60代において5割以上が「知っている」と回答している。また、性別では、男性は62.3%、女性は55.5%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が6.8ポイント高い。

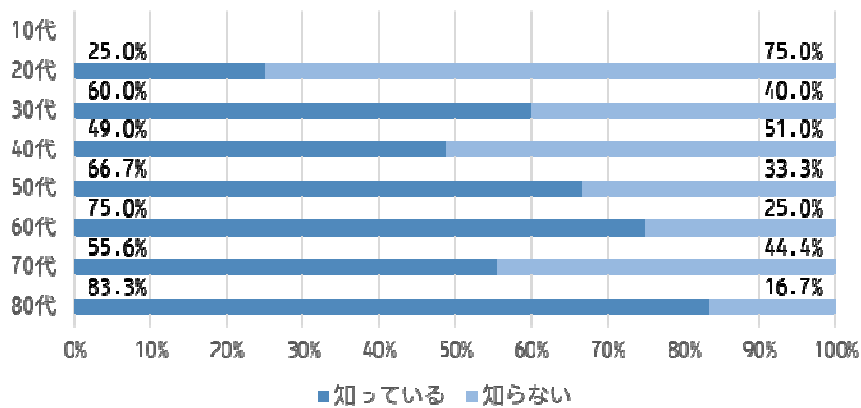
問9 問8で「知っている」を選択した方に伺います。本市が土砂災害ハザードマップを令和3年3月に改訂し、公表したことをご存知ですか？（1つ選択）

(回答者：187人)
(無回答：5人)



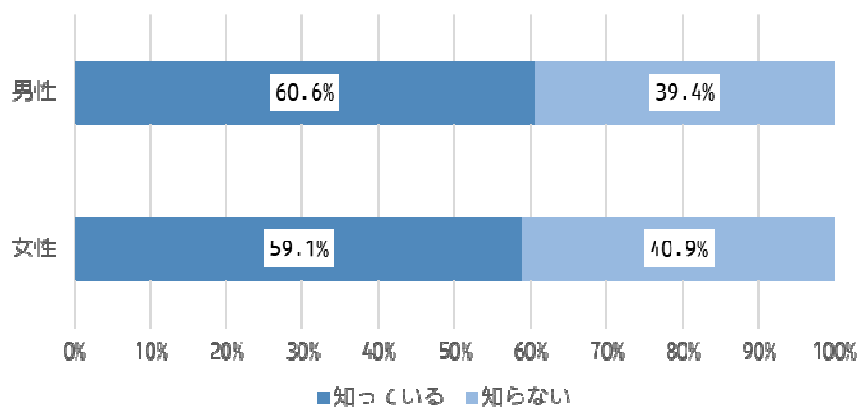
■ 知っている ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ 知らない

性別



■ 知っている ■ 知らない

土砂災害ハザードマップの改訂について、59.9%が「知っている」と回答している。年代別では、30代以上の半数以上が「知っている」と回答している。また、男女別では、男性は60.6%、女性は59.1%となっており、女性よりも男性の方が1.5ポイント高い。

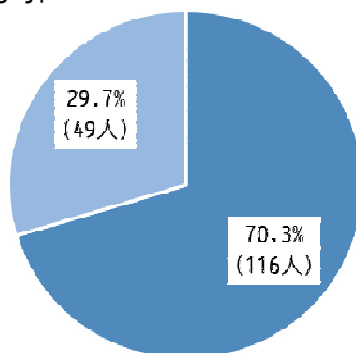
問10 問8で「知っている」を選択した方に伺います。土砂災害ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

土砂災害ハザードマップURL

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2172.html>

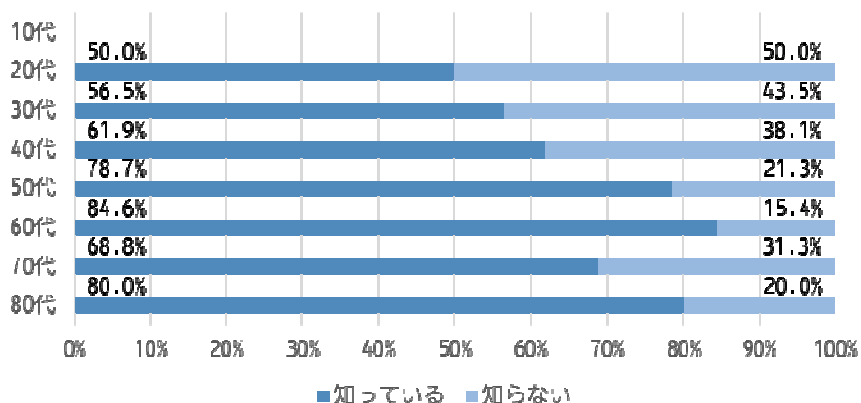
(回答者：165人)

(無回答：27人)



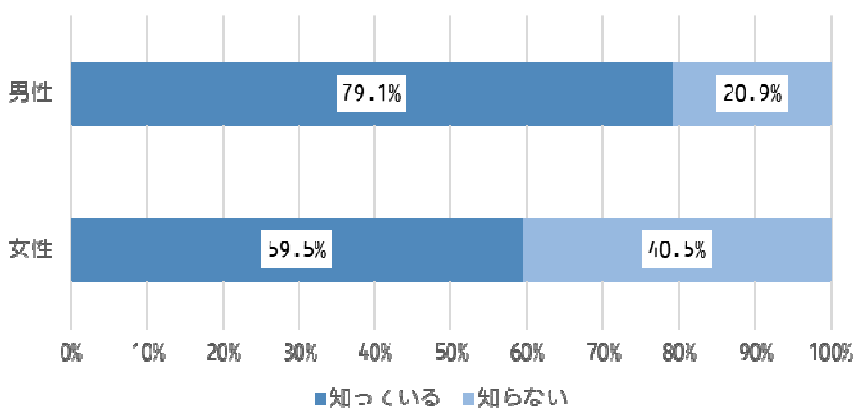
■ 知っている ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ 知らない

性別

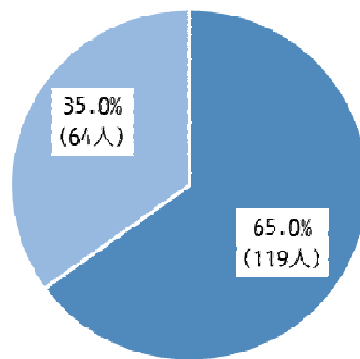


■ 知っている ■ 知らない

土砂災害ハザードマップのダウンロードについて、70.3%が「知っている」と回答している。年代別では、どの年代も半数以上が「知っている」と回答している。また、男女別では、男性は79.1%、女性は59.5%となっており、女性よりも男性の方が19.6ポイント高い。

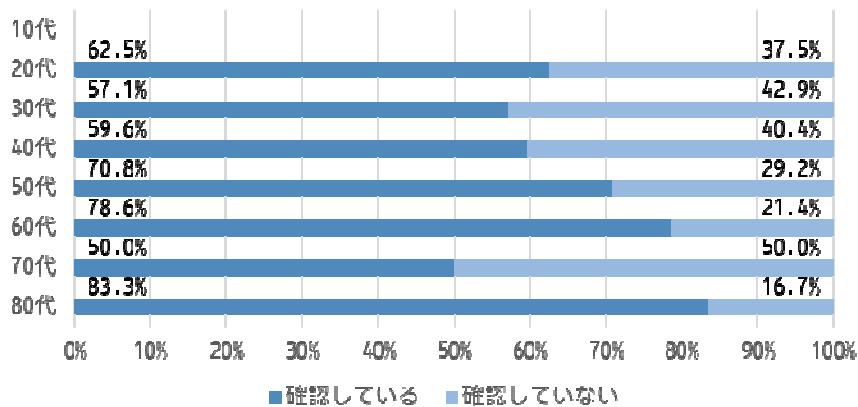
問11 土砂災害ハザードマップを使って、自宅や学校、職場等の土砂災害リスクについて事前に確認していますか？（1つ選択）

（回答者：183人）
（無回答：9人）



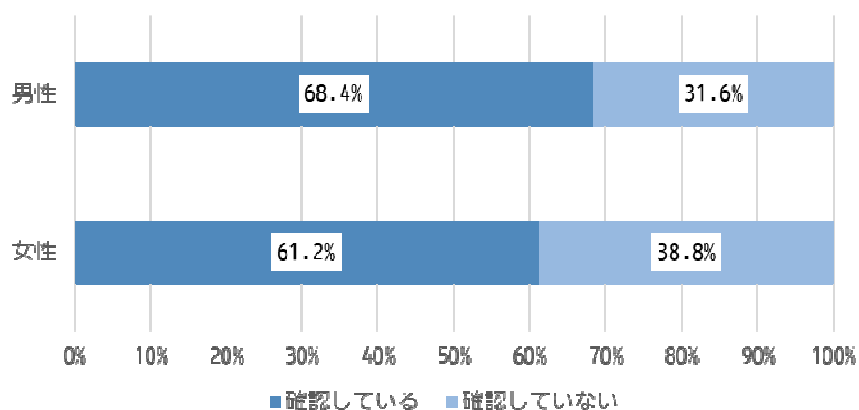
■ 確認している ■ 確認していない

年代別



■ 確認している ■ 確認していない

性別



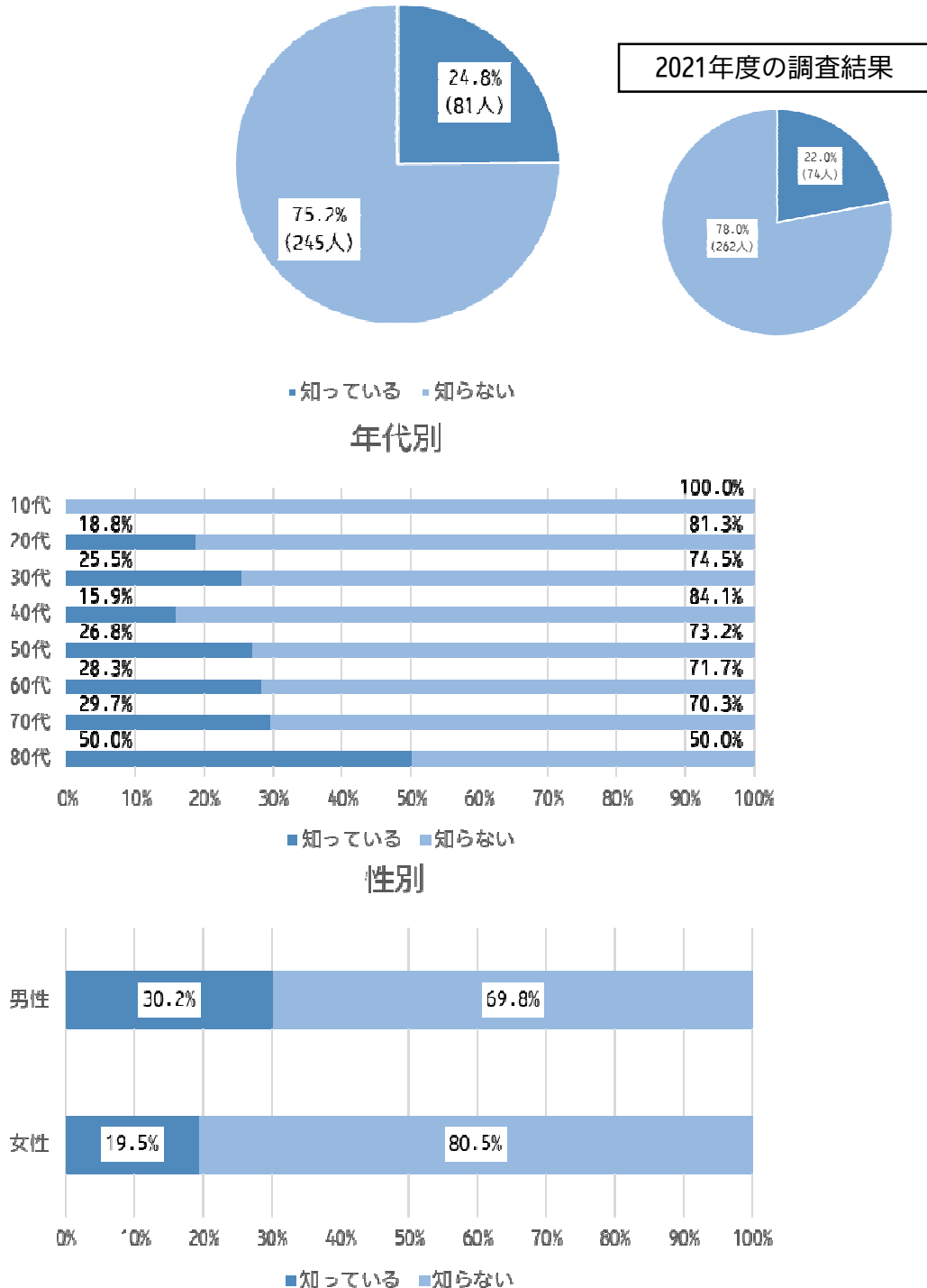
■ 確認している ■ 確認していない

問8で「知っている」と回答した方の内、65.0%が土砂災害リスクについて事前に「確認している」と回答している。年代別では、80代が83.3%、次いで60代が78.6%と割合が高い。男女別では、男性は68.4%、女性は61.2%であり、ともに約6割が「確認している」と回答している。

第4章 液状化ハザードマップについて

問12 郡山市液状化ハザードマップ（以下、液状化ハザードマップ）をご存知ですか？
（1つ選択）

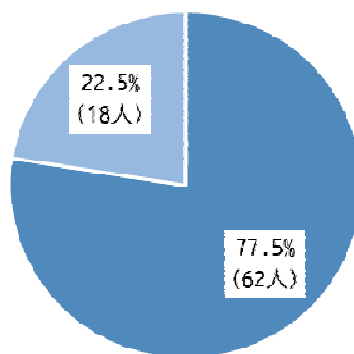
（回答者：326人）



全体の24.8%が「知っている」と回答している。年代別では、どの年代においても「知っている」と回答したのは5割以下で、全体的に認知度が低い。男女別では、男性は30.2%、女性は19.5%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が10.7ポイント高い。

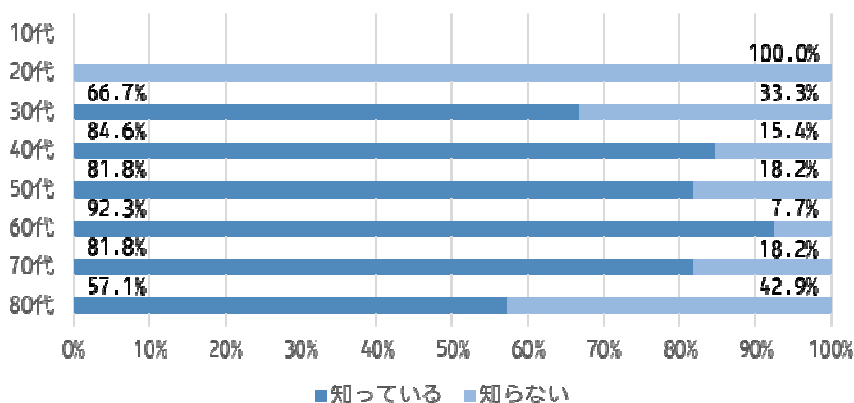
問13 問12で「知っている」を選択した方に伺います。本市が液化化ハザードマップを令和3年3月に作成し、公表したことをご存知ですか？(1つ選択)

(回答者：80人)
(無回答：1人)



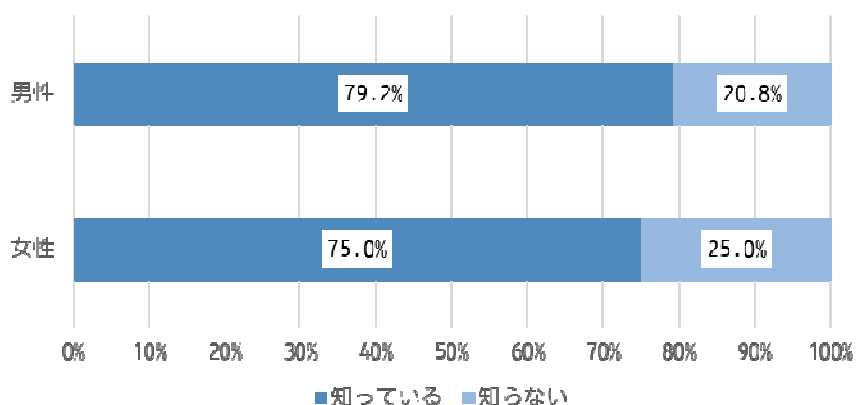
■知っている ■知らない

年代別



■知っている ■知らない

性別



■知っている ■知らない

全体の77.5%が「知っている」と回答している。年代別では、30代以降の世代で高い割合を示しており、液化化ハザードマップを知っている人のほとんどが、令和3年3月に新たに作成されたことを知っていた。男女別では、男性は79.2%、女性は75.0%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が4.2ポイント高い。

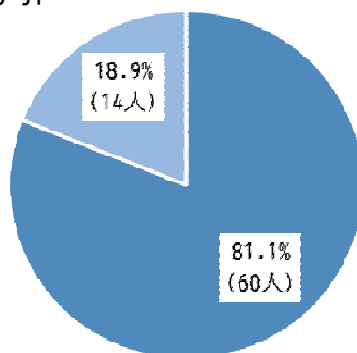
問14 問12で「知っている」を選択した方に伺います。液状化ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？(1つ選択)

液状化ハザードマップURL

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2180.html>

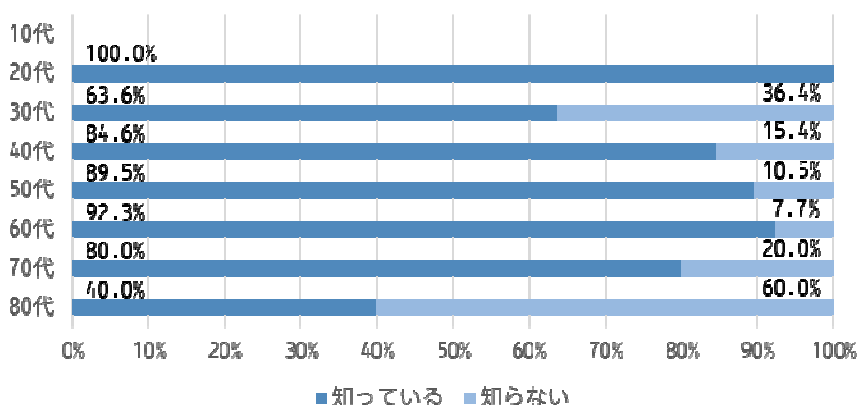
(回答者： 74人)

(無回答： 7人)



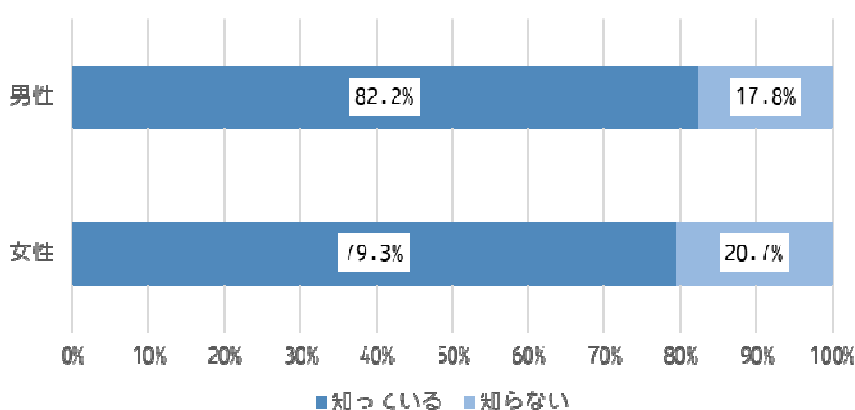
■知っている ■知らない

年代別



■知っている ■知らない

性別



■知っている ■知らない

液状化ハザードマップのダウンロードについて、81.1%が「知っている」と回答している。年代別では、10代、80代を除く各年代において6割以上が「知っている」と回答している。また、男女別では、男性は82.2%、女性は79.3%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が2.9ポイント高い。

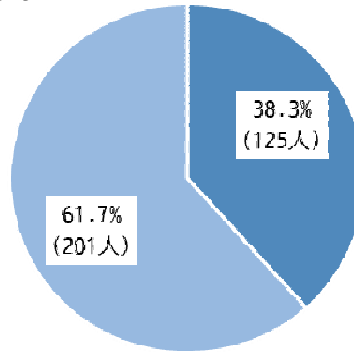
第5章 郡山市地理情報システムについて

問15 インターネットで洪水浸水想定区域や浸水深、土砂災害（特別）警戒区域等を見ることができるサービス「郡山市地理情報システム」をご存知ですか？（1つ選択）

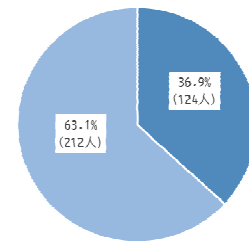
郡山市地理情報システムURL

（回答者：326人）

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/22/1161.html>

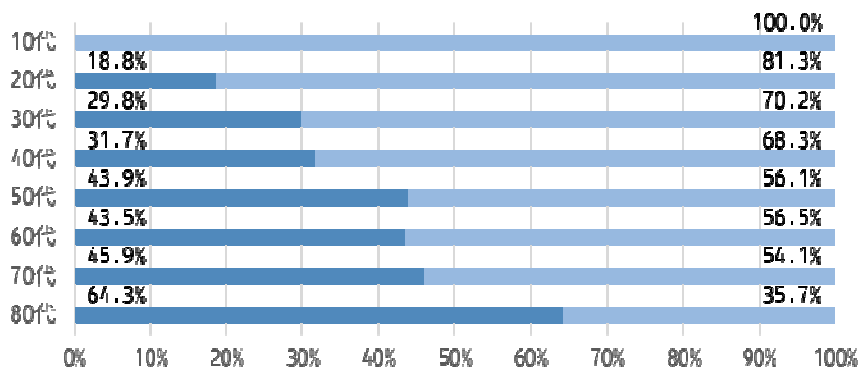


2021年度の調査結果



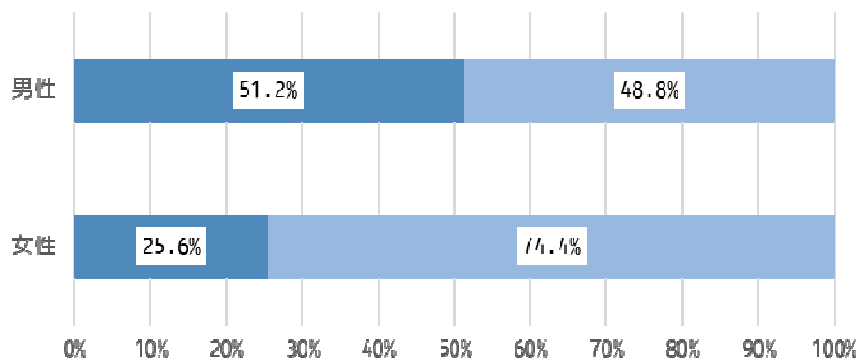
■知っている ■知らない

年代別



■知っている ■知らない

性別

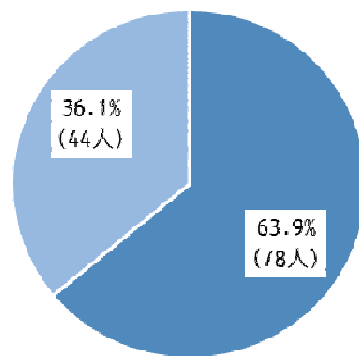


■知っている ■知らない

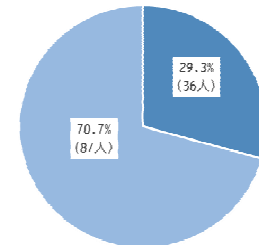
全体の38.3%が「知っている」と回答している。年代別では、10代では認知度は0%であり、その他の年代においても80代を除いて、半数以下の割合を示していることから、「郡山市地理情報システム」の認知度は低い。男女別では、男性は51.2%、女性は25.6%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が25.6ポイント高い。

問16 問15で「知っている」を選択した方に伺います。郡山市地理情報システムを使って自宅や学校、職場等の水害リスク、土砂災害リスクについて事前に確認していますか？
(1つ選択)

(回答者：122人)
(無回答：3人)

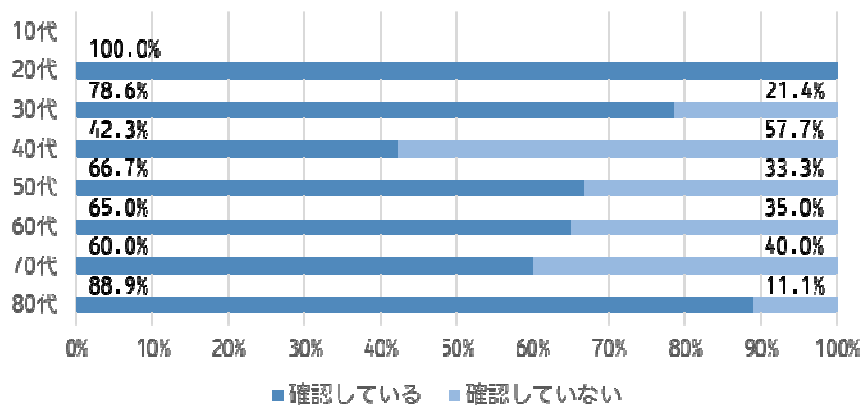


2021年度の調査結果



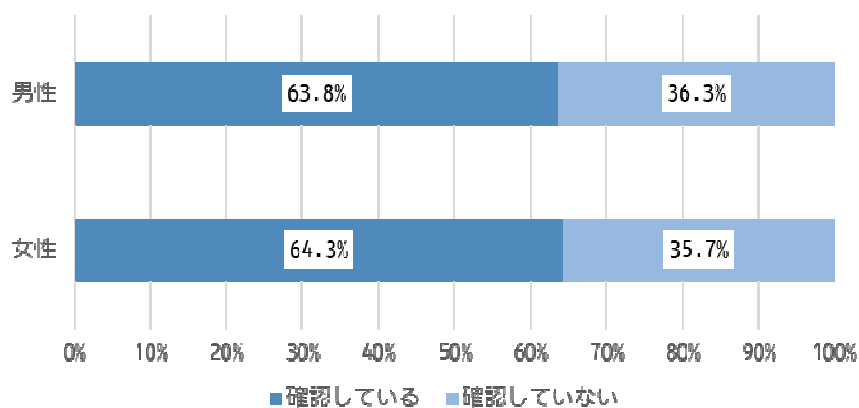
■ 確認している ■ 確認していない

年代別



■ 確認している ■ 確認していない

性別



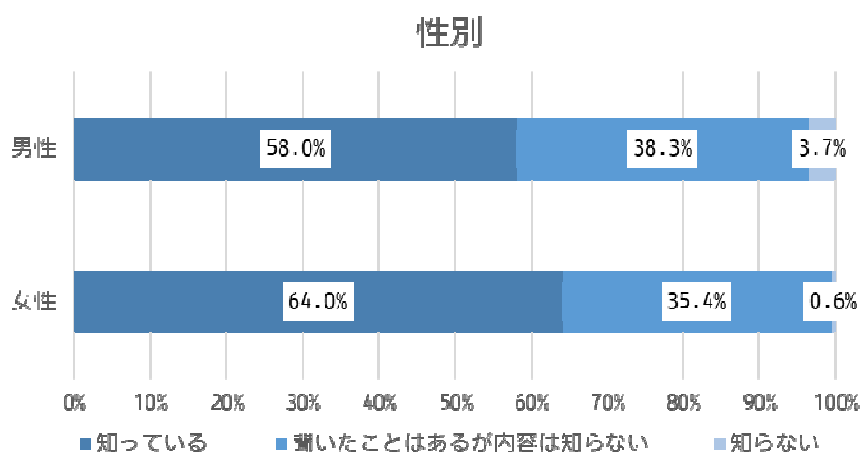
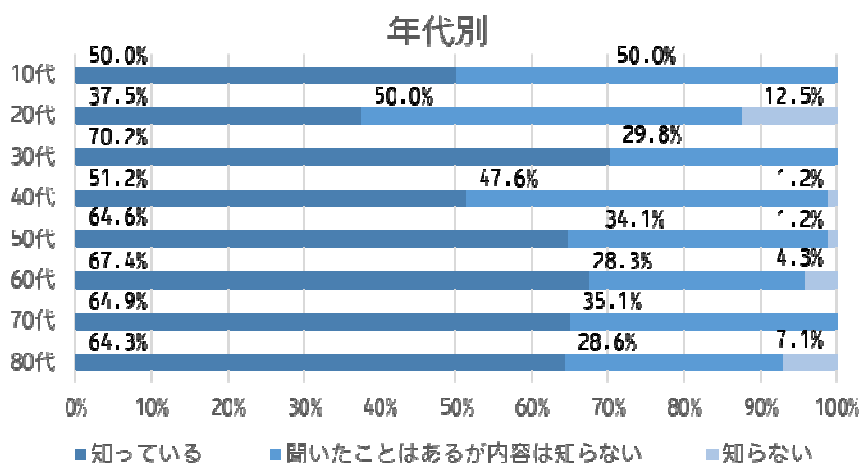
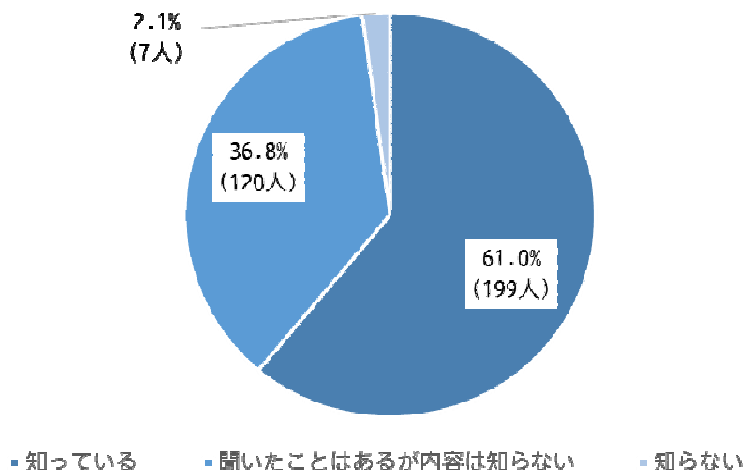
■ 確認している ■ 確認していない

全体の63.9%が「確認している」と回答している。40代を除いて、どの年代も半数以上であり、郡山市地理情報システムを用いてリスクの確認を行っている人の割合は全体的に高い。男女別では、男性は63.8%、女性は64.3%であり、ともに6割以上が「確認している」と回答している。

第6章 避難等について

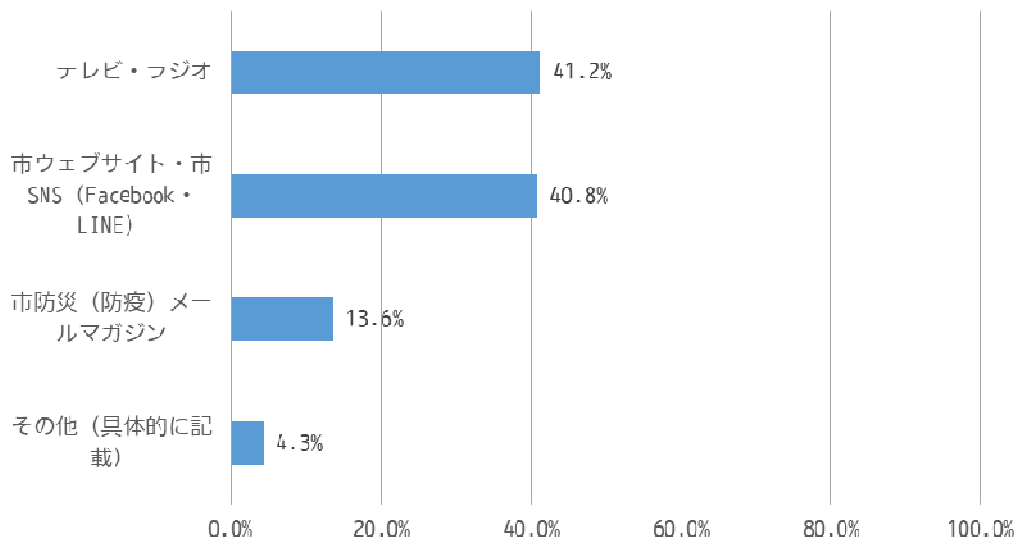
問17 警戒レベルについてご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：326人）



全体の61.0%が「知っている」、36.8%が「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答し、合わせて97.8%が警戒レベルを聞いたことがある。性別では、男性は96.3%、女性は99.4%が「知っている」もしくは「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答しており、男性よりも女性の方が3.1ポイント高い。

問18 本市では、災害情報や避難情報などを様々な手段で配信していますが、どのような手段で情報を取得していますか？（複数選択）



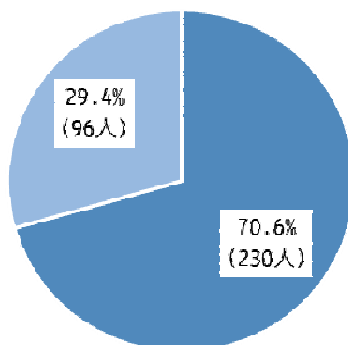
■ 「その他」を選択した方の主な意見

- ・スマホアプリの通知
- ・広報こおりやま

「テレビ・ラジオ」が41.2%で最も多く、「市ウェブサイト・市SNS (Facebook・LINE)」が40.8%で次に多い結果となった。

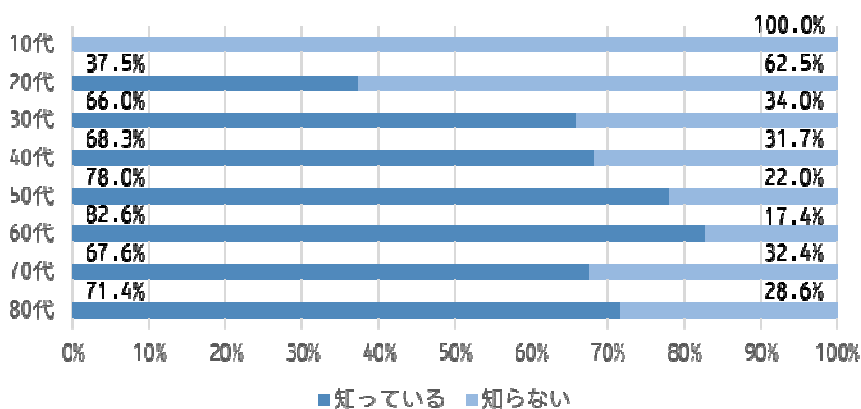
問19 「わが家の防災ハンドブック」をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：326人）



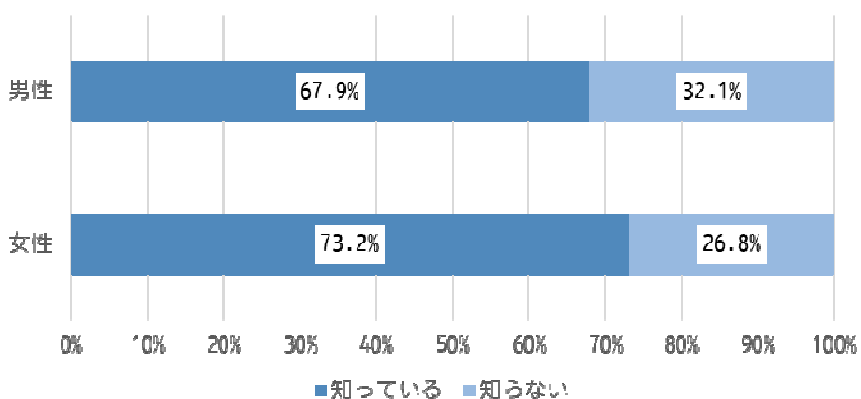
■ 知っている ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ 知らない

性別

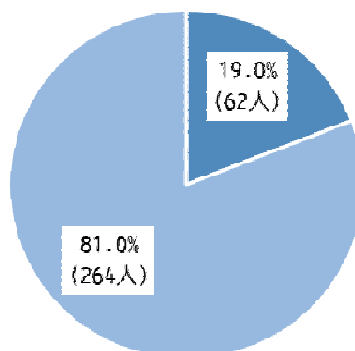


■ 知っている ■ 知らない

全体の70.6%が「知っている」と回答している。年代別では、10・20代を除いて、どの年代においても半数以上となっており、認知度は高い。男女別では、男性は67.9%、女性は73.2%であり、ともに約7割近い人々が「知っている」と回答している。

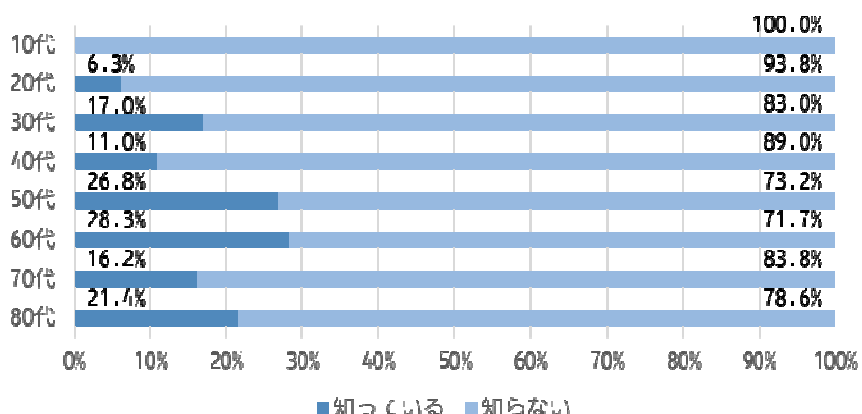
問20 台風等に備え活用できる「マイ・タイムライン（※）」をご存知ですか？（1つ選択）
 （※）台風の接近によって大雨などにより河川の水位が上昇する時に、「いつ・どんなとき・何をするか」をあらかじめ整理した自分自身の防災行動計画

（回答者：326人）



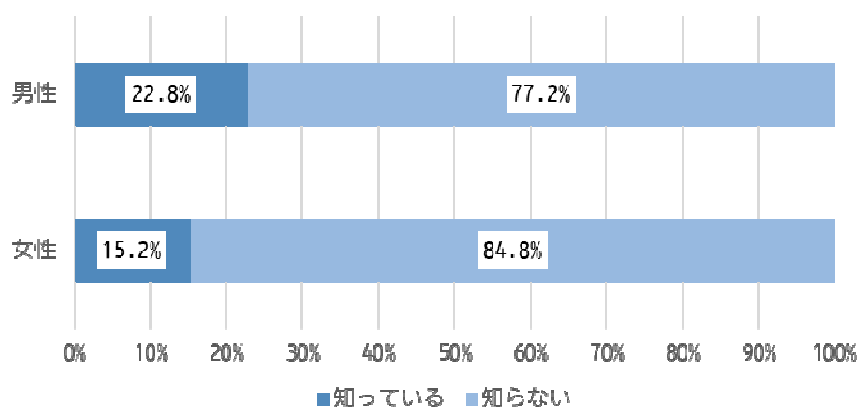
■ 知っている ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ 知らない

性別

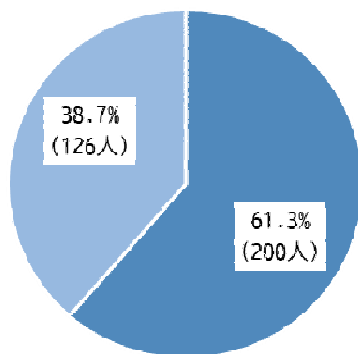


■ 知っている ■ 知らない

全体の81.0%が「知らない」と回答している。年代別では、どの年代においても3割以下となっており、認知度は低い。男女別では、男性は22.8%、女性は15.2%であり、女性より男性の方が7.6ポイント高い。

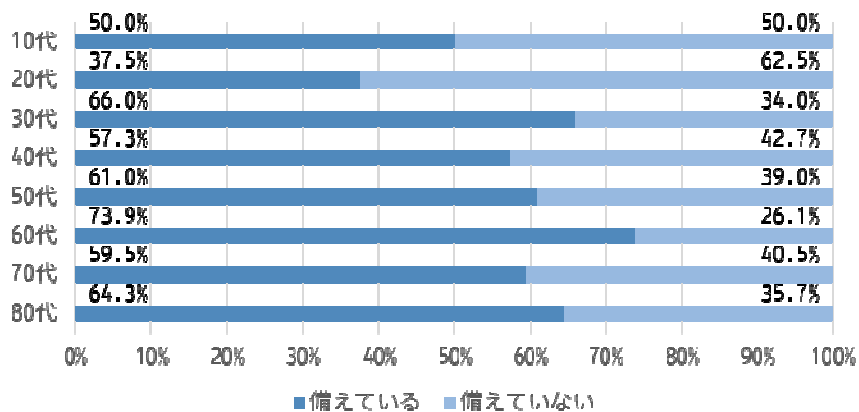
問21 家庭内に災害のための非常用備蓄品を備えていますか？（1つ選択）

（回答者：326人）



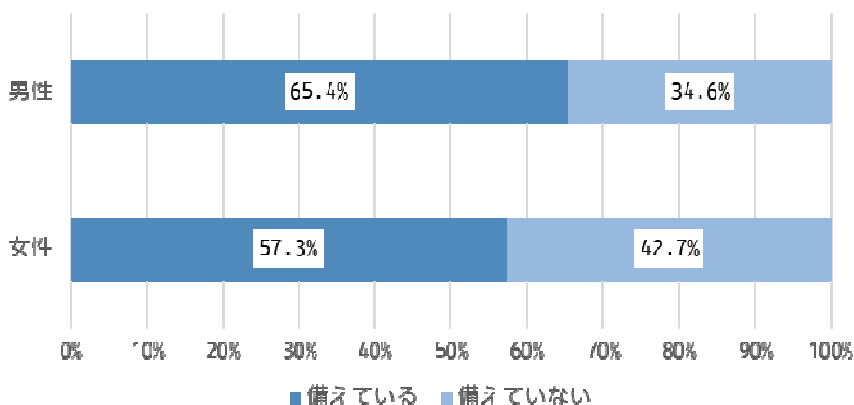
■ 備えている ■ 備えていない

年代別



■ 備えている ■ 備えていない

性別



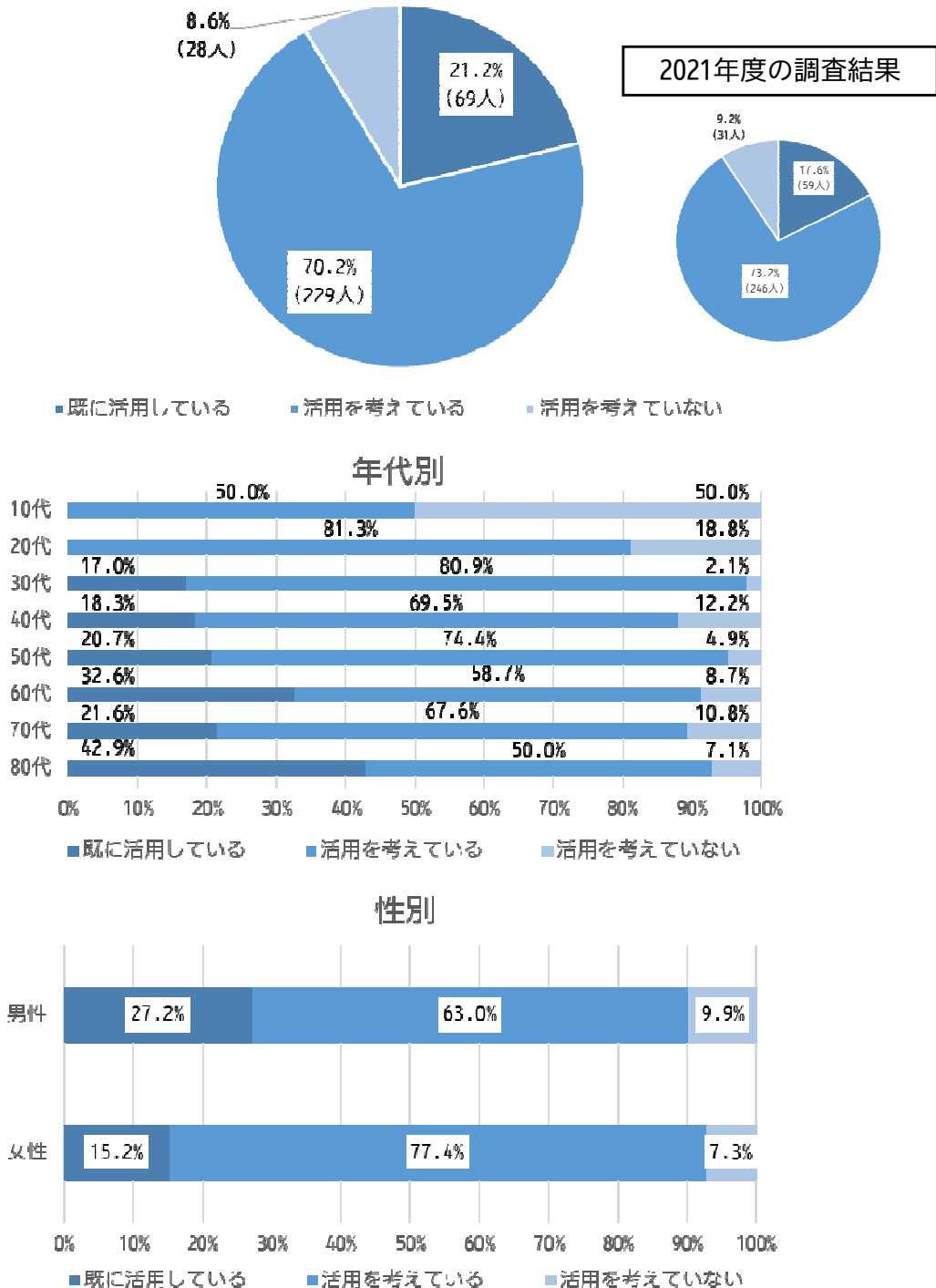
■ 備えている ■ 備えていない

非常用備蓄品を61.3%が「備えている」と回答している。年代別では、20代を除く各年代において5割以上が「備えている」と回答している。また、男女別では、男性は65.4%、女性は57.3%が「備えている」と回答し、女性よりも男性の方が8.1ポイント高い。

第7章 その他

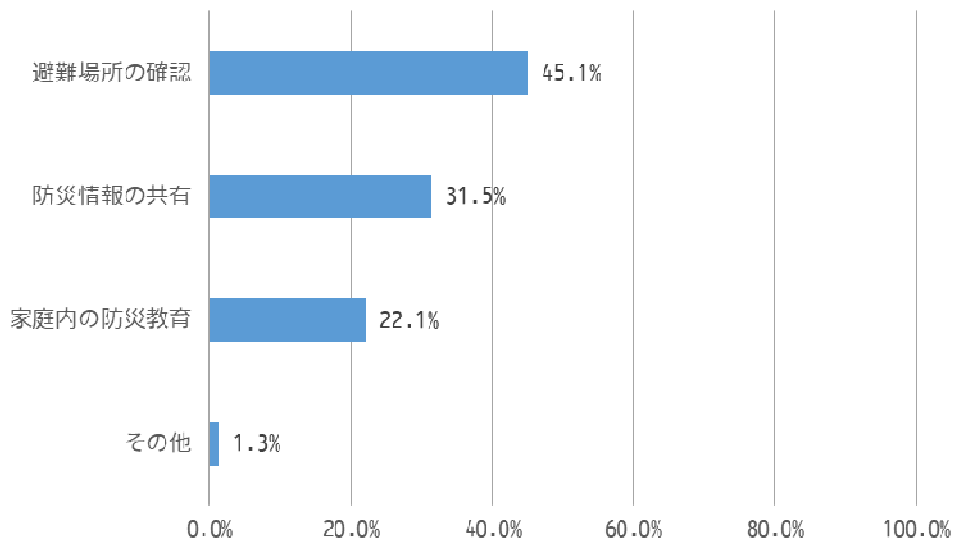
問22 今回のアンケートを機に各種ハザードマップ（洪水、土砂災害、液状化）を活用しようと思いませんか？（1つ選択）

（回答者：326人）



全体の21.2%が「既に活用している」、70.2%が「活用を考えている」と回答し、合わせて91.4%が各種ハザードマップの活用について考えている。性別では、男性は90.2%、女性は92.6%が「既に活用している」もしくは「活用を考えている」と回答しており、男性よりも女性の方が2.4ポイント高い。

問23 問22で「既に活用している」や「活用を考えている」を選択した方に伺います。どういった活用を実行していたり、考えていますか？（複数選択可）

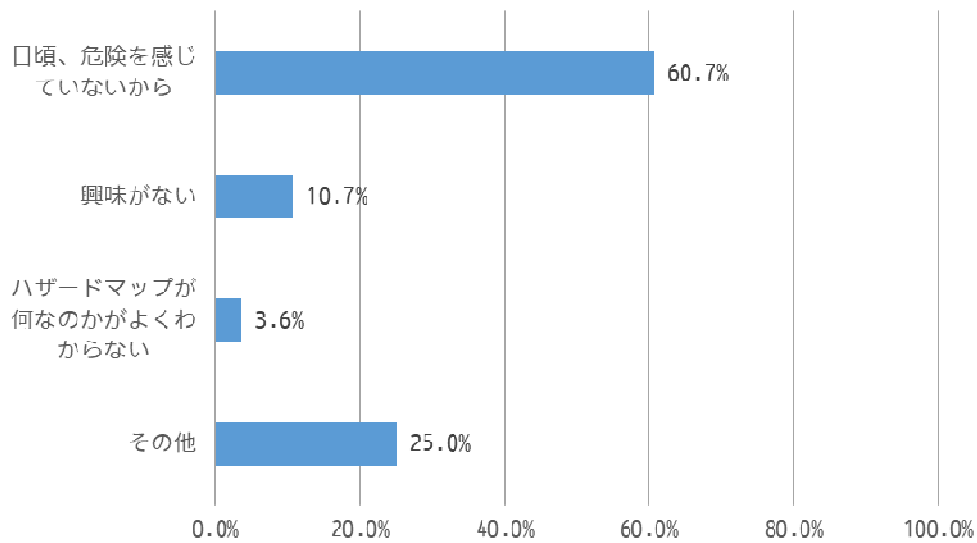


■「その他」を選択した方の主な意見

- ・転居の際、不動産投資への参考
- ・外国人のための防災講座

「避難場所の確認」が45.1%で最も多く、「防災情報の共有」が31.5%で次に多い結果となった。

問24 問22で「活用を考えていない」を選択した方に伺います。それはなぜですか？
(複数選択可)



■ 「その他」を選択した方の主な意見

- ・ハザードマップが見つらい点と、地域の人に聞いたりコミュニケーションをとっておく方が役に立つと感じる
- ・洪水、土砂崩れ、液状化にならない場所に住んでいるため
- ・どのように活用してよいかわからない

「口頃、危険を感じていないから」が60.7%で最も多く、次いで「興味がない」が10.7%であった。

問25 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

ハザードマップの活用について
ハザードマップは必要だと思うが、長く住んでいれば経験的に危ない状況は分かるので徐々に見なくなる。他から移住する時や住み始めたばかりの時は分からないので参考になると思う。（40代・男性）
郡山市の液状化リスクをこのアンケートで知ったので今後情報収集したいと思いました。（30代・女性）
地震災害が一番関心があり、液状化ハザードマップを確認したい。（80代・男性）
小学校でも、子どもがハザードマップの勉強をして、家からの避難場所などを確認していました。小さい頃からの勉強は大切だなと思いました。（40代・女性）
ハザードマップは大変役立っていると思います。（50代・女性）
周知について
昨今、災害が増えている現状を鑑みれば、ハザードマップなどを活用し、避難所や経路を確認することは、重要な行為である。もっと、自治体や町内会を通じて、ハザードマップの配布や講義に力を入れて、積極的に周知活動を行なって欲しい。（20代・男性）
郡山市として常にメディア等で注意喚起をしておく事が重要と思います。のど元過ぎればが怖い。（70代・男性）
大成地区に住んでおり水害、土砂災害など正直可能性は低く、関心度合いは低いです。地域によるメリハリの有った周知徹底が必要です。（70代・男性）
日頃から、紙媒体、インターネット等での周知は必要です。市民自らの備えとして緊急備品等の周知があると、良いと思います。（50代・男性）
ウェブサイトについて
災害がないときに、郡山市ウェブサイトで、時々、災害情報を見て、見方を確認しておこうと思いました。（60代・女性）
災害時に市の防災ウェブサイトに繋がらない事の無い様にネット環境を整備して下さい。（70代・男性）
市のウェブサイトの情報更新が遅く令和元年の台風時水位が気になり不安な夜を過ごしたので情報更新はマメをお願いします。（50代・女性）
防災関係について
防災対策で何か費用が発生するならば、それに対しての助成制度があるか、あるならばその周知はどのように行っているかを知りたい。（40代・男性）
危険だということよりも、こうすれば安心だという情報が知りたいです。ハザードマップは不安を煽られる気がしていて、できれば見たくないという印象さえあります。避難所には子連れでも安心できるような工夫がありますよ、とか、こういう備えがあるといいですよというような前向きなメッセージがあると良いと感じます。（30代・女性）
避難所について
ベットがいる人用を別に作って欲しい。（50代・女性）
異常気象が多くなって来たので、キャンプ用品を利用した災害対策品をもう一度確認して、避難場所の家族の共有を早くします。（50代・女性）
その他
郡山市と福島県で連携した感じの防災アプリなどがあればと思います。職場や学校が市外の方もいるので…（40代・女性）
自分の位置情報に対し、ハザードマップと警戒レベルに対応した避難情報が通知されるような仕組みが欲しいです。今は市内のごく一部で警戒が高まっても全体にアラートが発出されているので自分にとって信憑性が低いです。（50代・男性）